



びるっば 8

医療法人近森会

発行 ● 2007年7月25日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

近森会 薬剤部のダイナミックな動き この10年を振り返って——

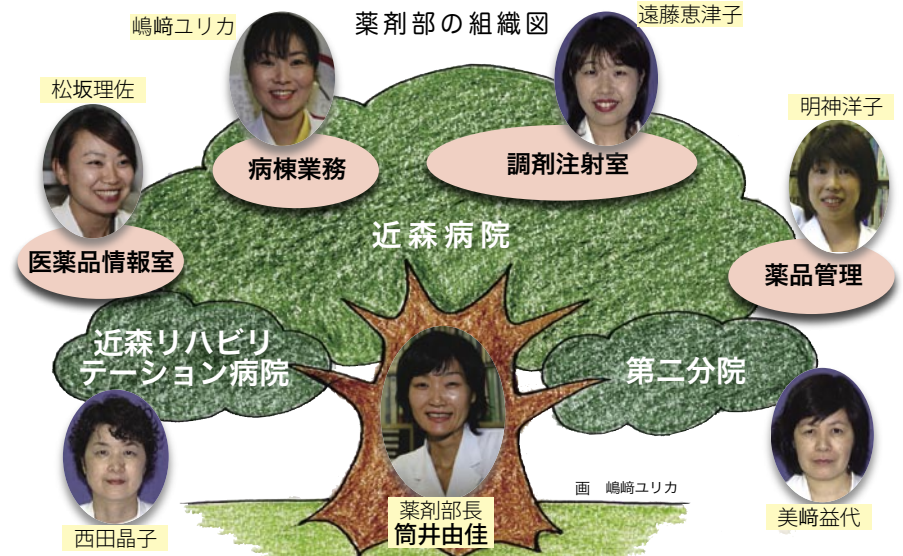
薬剤を扱うプロ中のプロ!の技

2006年の近森会 MVP 賞に輝いた薬剤部スタッフの活躍は、改めて振り返るまでもないかも知れない。次から次へと新しい事案への対応が求められる近森会にあって、薬剤部スタッフのフットワークの良さは際立っているのではないだろうか。

それでも、動きがダイナミックなだけに却って見えにくい部分もあるかと、就任1周年を迎えた筒井由佳薬剤部長と、病棟担当の嶋崎ユリカ主任が、この10年を振り返ってくれた。

①病棟業務に重点が移る院外処方箋の発行

まず、高知県内でもたいへん早い時期に院外処方箋の発行が始まったのが



ちょうど10年前(平成10年)の1月

のこと。これによってそれまで調剤業務に大きな比重のかかっていた薬剤師の仕事は、大きく様変わりし、病棟業務に重点が移ることになった。

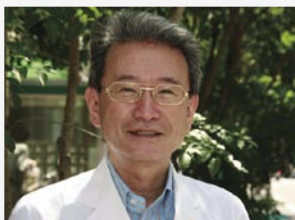
②SPD(院内宅急便)システムでさらに専門性発揮

薬剤を扱うプロとしての仕事をさらに極めるのが、院外処方箋発行から3年後(平成13年)の4月に始まるSPD(院内宅急便)システムで、薬剤師自らがこれまで行なっていた医薬品の発注や検品など、株式会社アスティスに一部を委託することになった。こうして、薬剤を扱う職種ならではの専門性を発揮する舞台はどんどん整っていく。

③抗生物質の効き具合を科学的に検証する「薬物血中濃度測定」

SPD(院内宅急便)も全部署を回り順調に展開されるようになっていた平成14年7月からの新たな展開。そのきっかけは院内感染対策だったが、抗生物質の効き具合を科学的に検証する「薬物血中濃度測定」が行なわれることになった。従来、副作用が心配されてきた抗生物質について、血中濃度を測定することで、身長体重その他さまざまな要素によって微妙に違う各人の薬剤の効き目を、最大限に発 次頁へ

「産業的」危機



近森 正幸

先日10万3千8百円の代金を振り込むために、妻に郵便局に行ってもらった。ところが、本人である証明がないと「振り込めない」といわれた。妻は自分の免許証を提示して姓も住所も同じであることを訴えたが、受け付けてもらえなかった。

後日秘書に郵便局に行ってもらったが、やはり免許証が必要とのことで、コピーを持たせたが、「本物でなければならない」と、突き返された。次に本物の免許証を持参したが、振込用紙の住所(小川寮の記載あり)と免許証の住所(小川寮の記載なし)

がわずかに違っていたので、訂正印を押し、やっと5回目にして振り込むことができた。

それにしても、なぜ妻では駄目なのか。免許証はなぜコピーでは駄目なのか。小川寮というわずかな追加項目の違いでなぜ駄目なのか。あきらかに分かっているであろうことなのに、窓口で平然と断る対応が理解できない。顧客志向とかいう問題以前のことに思う。

評論家の長谷川慶太郎は「いま不祥事は国内だけにしがみついている分野に集中している感がある。免許事業のテレビの番組捏造事件、株も非公開の新聞事業の不振。国公立大学と国公立病院の経営危機。どれも戦後体制の行き詰りそのものだ。なかでも行政サービスの『産業的』危機は深刻で重症だ」といっている。郵便局も民営化しない限り、こうした対応がおかしいことにさえ気がつかないのではないか。

理事長・ちかもり まさゆき

※前頁より

揮させるための取り組みである。扱いの難しい薬剤の適正使用が保証される画期的なシステムができあがった、といえる。

④薬剤アレルギーに対する問診開始

続いては平成16年に入り大きな動きとして、これまで義務づけられていた抗菌薬の皮内反応テストを厚生労働省からの通知により中止。

代わって、近森会で即導入したのが「抗菌薬投与に関連するアナフィラキシー(急激に起こるショック)対策」で、**薬剤アレルギーに対する問診を丁寧に**行なうことが始まった。

⑤抗ガン剤の混注開始

平成17年4月には、従来病棟で看

薬剤師の実力試験



昨年の「第1回ジェネリックネーム(薬剤一般名)試験」では、満点4名、平均点97.1点とすばらしい!成績を残すことができました。そして今回は『当院でよく使用されている薬剤の禁忌と相互作用』を試験範囲とする薬剤部門(満点が100点)と中学入試問題から出題される一般教養部門(満点が100点)について入江心臓血管外科部長と私が試験問題を作成いたしました。「簡単な問題を!」との願いのなか、6月13日に薬剤師19名が試験に挑戦しました。結果は172点の2名が同点総合優勝、平均128点という結果でした。薬剤部門は最高100点、平均68.5点、教養部門は最高85点、平均59.8点と、専門である薬剤部門で良好な成績でした。試験後に成績優秀者にはりっぱな表彰状が贈られました。薬剤師の国家試験に合格し、社会に出てからは試験を受ける機会など度々あることではありません。自分の知識を呼び起こしたり、整理するためにも、日常のスパイスとして今後も取り組んでいければと思っています。なお、医師向けの試験も6月下旬に実施されました。(薬剤部長 筒井由佳)

護師が行なって来た抗ガン剤の混注を専用スペースで薬剤師が行なうようになり、抗ガン剤の治療計画書も作成し服薬指導も行ない、抗ガン化学療法の安全確実な実施に向けての取り組みが始まった。

⑥後発薬剤の導入

毎年システムの大きな変更が続けている薬剤部の平成18年5月の大変革、それが**後発薬剤の導入**で、薬剤部スタッフにとっては「病院を挙げて皆さんにご協力いただきスムーズに導入できました」ということだ。

⑦入院窓口で持参薬の鑑別開始

さらに平成18年9月からは入院窓口で患者さんの持参薬についての面談と鑑別を始め、**入院と同時に確かな薬剤情報提供**が病棟スタッフに行なえるようになった。鑑別件数は月平均2,500剤にのぼる。

⑧全一般病棟でTPNの混注開始

平成19年4月には薬剤部に名称変更。7月には、いくつかの病棟で行なっていた**TPN(中心静脈栄養)の混注を全ての一般病棟**で行なうようになった。

⑨あらゆる情報の収集と発信

従来からの調剤業務に加え、薬剤部の重要な業務としてDI(医薬品情報)業務がある。厚生省の指示で製薬メーカーが発出する「緊急安全性情報」から、薬剤の包装、表示変更に至るまで、**医薬品に関するあらゆる情報の収集と関係部署への情報発信と問合せへの対応**が主な仕事。ちょうど200号を迎えた院内医薬品情報誌『かぶせる』の発行や「医薬品集」も作成している。

⑩近森会の各委員会活動

この他、薬事委員会、感染対策委員会、クリニカルパス委員会、医療安全委員会、NSTなど、**近森会の各委員会活動に薬剤師として主体的に関わり**、その裾野を拡げている。

第39回 地域医療講演会

超音波診断 : 歴史から最近の話題まで

久直史先生をお迎えして

2007年6月22日、高知パレスホテルで

左から、近森正幸理事長、久直史院長、森田賢部長、入江博之心臓血管外科部長、浜重直久副院長



放射線科部長 森田 賢

久直史先生は超音波診断の日本のパイオニアの一人で、慶応大学病院から帰高されたあとも、常に超音波診断の第一線で活躍中であり、いま話題の造影超音波診断がテーマということもあり、皆さまに関心を持たれる講演会となったようです。

当日は80名収容の会場が、院内外の聴衆で満員となる盛会ぶり、超音波診断の詳しい歴史から、最近話題の造影超音波に至るまで多岐にわたる内容を、予定を大幅にオーバーする2時間余り熱く語っていただいた大講演会となりました。

改めて超音波診断が現代医療の中で占める重要性を再認識するとともに、久先生には講演会前の近森病院での造影超音波の実地指導を含め、貴重な時

間を割いていただけたこと、この場を借りて感謝申し上げます。本当に有難うございました。

今回の講演が当院のみならず、高知県全体の医療水準の向上に寄与することを期待して地域医療講演会の報告といたします。

お●知●ら●せ

● 第41回 地域医療講演会

日時: 8月18日(土)18時30分

会場: 高知新阪急ホテル

講師: 松本誠一 先生

癌研有明病院(東京)

整形外科部長

演題: 「骨軟部悪性腫瘍の

診断と治療」

問合せ: 近森病院 地域医療連携室

● 第18回 クリニカルパス大会

日時: 平成19年9月8日(土)

9:00 ~ 12:00

場所: コンフォートホテル高知駅前
(高知市北本町二丁目 883-1441)

テーマ: 大腸切除術

担当科: 消化器外科

トピックス: ストマケアについて

問合せ: 近森病院 診療情報管理室内

クリニカルパス事務局

(担当: 鍵本内線 6932)

「看護に生かせる情報活用」を メインテーマに看護学術大会



プログラム委員長を務めた吉永師長

近森病院 4階東病棟看護師長 吉永 富美

第8回日本医療情報学会看護学術大会が、本年は福岡で開催されました。

2000年より日本医療情報学会看護部会が発足し、看護情報研究会として活動してきました。

徐々に参加者も増え、活動が認められ、今年度より看護学術大会に名称が変更されました。「A Review of Nursing Information 看護に生かせる情報活用」をメインテーマに36の一般演題とチュートリアル「地域連携に重要な保険の知識」「診療材料の管理と院内物流の可視化」の発表があり、プログラム委員長として参加しました。

一般演題には、「看護支援システム移行時における看護マスタの整備への取り組みと課題」(吉永)と、「文書管理システムを使用した褥瘡管理電子化への取り組み」(5西・田中理子さん)、「近森病院におけるクリニカルパスの電子化への課題」(久保田聡美総看護師長)の発表を行いました。

看護マスタの整備の発表では、前システムのマスタを使用し、できるだけ運用を変えずに導入したかったが、システム設計の違いでマスタの変更や運用の変更を余儀なくされた。標準化出来ず、現場の負担も大きかったことを発表しました。MEDISの標準マスタを使用し、現在開発中のマッチングツールを使用することで当院のマスタに合わせる事が可能ではないかと助言をいただき、次期システムに活用したいと感じました。

ほかに記録の監査や指示受けシステムの構築など今後の参考にしたい内容の報告が多くありました。

また、シンポジウム「質の時代の看護サービスと国民医療」には近森理事長がシンポジストとして参加。チーム医療で労働生産性を上げ、コストを下げ、利益をだし、質の高いスタッフを増やすことで、いい医療が提供できる。そのためには、7対1看護に加え、DPC実施病院、プラスαとして臨床研

修病院、救急医療に取り組むことが大切であると訴えました。

当院のチーム医療や看護に対する期待等を聞き、他施設の方々も大きく影響を受けたようでした。



右から二人目に近森正幸理事長

院外エッセイ

私、「番茶」の味方です!

江ノ口小学校区青少年育成協議会
(江ノ口青少協) 会長 矢間 慎一

江ノ口まつり実行委員長、PTA会長OB、高知駅周辺土地区画整理審議会副会長、江ノ口コミュニティプラザ(仮称)管理運営方針策定委員会、江ノ口小開かれた学校づくり推進委員会(以下略)



昭和30年生まれ、52歳、身長5尺7寸、体重19貫。すこぶる健康であると自負している私ですが、血圧の管理を始めてすでに15年程になります。薬は服用していますが、高血圧に伴う自覚症状などありません。測定機器に嫌われているのか、ヤツらは無慈悲な数値を表示し続けています。

医院通いのきっかけは、赤岡町の「どろめ祭り」でした。37、8歳の頃でしたが、仕事の関係で祭りに招待されたのです。酒と体力には自信がありましたし、せっかくの機会ですから話の種にと大杯に挑戦すべくエントリーしました。

本番30分前、お医者さんが浜にやってきて簡単な検査が始まりました。私の腕をとって何度も測り直した後、血圧の高さにあきれながら先生は「あなたにいま一升の酒を飲ますことは私が許さない」とキッパリ。見事なドクター・ストップでした。情けないやら悔しいやら、血圧を正常にしてみよう一度挑戦してやる、と負け惜しみを胸にスゴスゴと退散したのでした。

以来、とある医院でお世話になっているのですが、依然として高い時もあり安定はしていません。原因については重々承知しております。なにせ先生

の言うことを聞かない。体重こそ愛犬に助けられ減らしたのですが、酒、タバコは気の向くまま。ことに酒にいたっては、先生からいただいた食品別カロリー・塩分目安表を家の冷蔵庫に貼ってあるのですが、その食材を見ながら「おっ今夜はこれで一杯。たいていは控えめにしなさい」という食材ですから始末に悪い。いまだに「どろめ祭り」にはリベンジできずにおります。

リベンジはできませんが、血圧の管理と同時期に番茶を飲むことを始めたのです。毎朝昼食にはかかさず、夕食は例の好物を飲みますからお休みしますが、一服時にもコーヒーではなく番茶にしました。やかんで煮出して容器に移し冷蔵庫へ、我が家では1年中冷やした番茶を用意しております。

番茶の習慣のおかげというべきか、血圧以外のたとえば血液成分などはすべて標準値に収まっており、近所の薬剤師の友人など「新本町の七不思議の一つ」だと羨みます。番茶は緑茶のなかでもランクを低いいわれがちですが、私には色、香り、のど越し、いずれも十分に満足できるものだし、なにより我が身の不摂生をカバーしてくれる有難い薬だと信じ込んで、今後とも飲み続けようと思っています。

高知市 障害者相談支援センターちかもり この1年半の活動

コツコツと出向いてこそ 向き合える暮らしがある

高知市の委託でスタート

とても簡潔に言えば、「身体に障害を抱える人たちの在宅生活を総合的に支える部署」として、高知市障害者相談支援センターちかもり（以下「支援センター」）は平成18年4月1日に高知市より委託を受け、活動がスタートした。日々の運営は専門相談員2名で行なわれ、制度に関する説明・諸手続き・代行・社会資源の紹介が中心業務となる。

思いもよらない障害を抱えた人々

「支援センター」の専門は18歳~64歳の身体障害者で、土佐山を含む市内の北部と東部を担当している。三障害（身体・知的・精神）の相談窓口でもあり、より専門的な支援が必要な場合には「支援センター」から各支援センター

に引き継ぎも行なっている。

一口に身体障害と言っても障害部位はさまざまで、車椅子や歩行支援用具を使用している方ばかりでなく、心臓・肝臓・腎臓など身体の内部に障害を抱えている方や、視覚障害者、聴覚障害者、難病者など、健常者には思いもよらない障害を抱えている方が大勢おら



在宅所たんぽぽ大津で、在宅障害者のためのボランティア活動が続けられるよう、その支援を続ける専門相談員の、林恵支援センター主任

専門相談員の片岡裕美さん。受診に訪れた一人暮らしのDさんとバッテリー会ったついでにこの頃の暮らしぶりに花を咲かせて色々談笑



れる。

どうすれば本当に役に立つのか

じつは、身体のどの部位に障害を抱えておられるかによって、生活で困難となる状況は違ってくるが、こういうことは実際に出向いて面談して色々な話を聞いたり調べたりするなかで、やっと少しずつ見えてくることでもある。それぞれにじつに個別の対応が求められ、相談の専門性が問われる場面も数々ある。

簡単に説明すると、車椅子や歩行支援用具を使用している方には、住環境を整え福祉用具を利用し生活しやすい環境を作る。住環境の設定や家族の支援だけでは不十分な場合に公的サービスの利用も検討しなければならない。

身体の内部に障害を抱えている方は、改修や物品利用だけでは生活が改善されない。動けるけれど身体のしんどさや活動量の制限のためにできないことがじつは大きな支障になっている。

視覚障害の場合も全く見えない人ばかりではない。人によって見え方が違うので、個人に応じた支援をしないと、持っている能力を発揮できない場合が出てくる。

暮らしやすさ度アップを実感

こういった相談経路は市役所の元いきがい課や病院、本人・家族、関係機関からで、「支援センター」では、ヘルパーや福祉用具等の紹介・申請手続きで関わった約115例の在宅生活者の把握をしている。

地道な裏方の仕事で、今日よりは明日、明日よりは明後日へと在宅生活が爆発的に改善されるというような、効き目の出やすいサービスではないが、林・片岡両相談員にとっては、丁寧なバックアップを喜んでもらい、少しずつ暮らしやすさ度アップを実感してもらえるのが、日々のやり甲斐だと張りきっている。

接遇研修の報告

受審の機会に、医療人としての原点に

コミュニケーション委員会 委員長 片岡 真一



春のPS(患者満足)研修は、もはや近森会の定例行事であるといっても、過言ではないと思われます。

その一方で、現場でのさらなるスキルアップも望まれていました。具体的には医療機能評価受審前に、各部署をまわって改善点を指摘してもらおうということです。今回看護部長の紹介で、静岡よりCS(顧客満足)コンサルタントの石割郁子先生をお招きいたしました。

昼前から開始した院内のラウンド

E & E プロモーション(株)の石割郁子先生

は、新館・本館はもちろんのこと、管理棟や北館まで訪問していただきました。

早速夕方方の講演では、日中にまわった各部署の具体的事例をデジカメで撮影し、やや辛口(?)のご指導をいただきました。多数の方々が、大変驚かれたようで、多忙な日常にはつい忘れていたことが、あらためて浮き彫りになりました。

最後に先生のお言葉をおかりすると、「医療機能評価受審を機会に、再度医療人としての原点に立ちかえていただきたい」とのことでした。関係者皆様方、大変お疲れさまでした。





外来で、「呼び出し専用 携帯サービス」が、 始まりました。

外来では予約診療を積極的に行なうなど、待ち時間の短縮に努めてはおりますが、検査を受けていただいたり、その検査結果待ちをはじめとして、現状では相変わらず待ち時間が発生しています。

そこで、この時間を有効に使っていただくために、この6月から、席を離れた患者さんには「呼び出し専用ケータイ」をお渡しして自由にお席を離れていただき、順番が来ることを専用ケータイでお知らせするサービスを始めました。

通常の携帯電話と変わりはありませんので、例えばエレベーター内や建物の地下など電波の届きにくいところがあります。ご使用の際はその辺の配慮



をお願いいたします。

病院スタッフからも状況を見てお声をかけさせていただいておりますが、お気づきの点等ございましたら、遠慮なく外来の各科窓口へお申し出ください。

薬用酒アラカルト²³ ブルーベリー酒

文と画 薬局 嶋崎 ユリカ



今回は北アメリカ原産、深いブルーの実が美しい、ブルーベリーのお酒に挑戦しました。

材料の提供はまたまた近森理事長です。日曜市で購入した温室ブルーベリーをいただきました。

<材料>(密閉容器 1リットル分)

ブルーベリー 400g

ホワイトリカー 約 600ml

<作り方>

①ブルーベリーは水洗いし、傷つけないように水気をふき取る。

②そのまま容器に入れ、ホワイトリカーを注ぎ、漬け込む。

③1ヵ月目ぐらいで飲めるようになるが、3ヵ月以上熟成させるとまろやかになる。

皮からの渋味が出ているようだったら、3ヵ月ほどで実を引き上げる。

ブルーベリー酒には、皆さんご存知のように、眼精疲労、視力回復のほか、滋養強壮、疲労回復、栄養補給、新陳代謝、健胃整腸、安眠、美容などの効果があるといわれています。

漬け込んでから約3週間後、ひろっば編集委員による試飲会を行いました。「鮮やかな赤紫色がとてもきれい」、「少し酸味があつてさっぱりしている」、「ほんのり甘い」などの感想をいただきました。もう少し長く漬け込めば、まろやかなお酒になりそうですので、残りはさらに熟成させてみようと思っています。

氷を浮かべて食前酒にしたり、お菓子の隠し味にしたり、楽しみ方はいろいろです。

パソコンでの業務で、目の疲れを感じている方、また、よさこい祭りの練習でバテている方、本祭までにお肌の調子を整えたい方、高知の暑くて熱い夏を、さっぱりとしたブルーベリー酒で乗り切りませんか？

リレーエッセイ

大所帯の旅が嬉しい♥

近森リハビリテーション病院言語療法科 言語聴覚士 藤本 祐子 (左端)

就職して2年目を迎えました。学生のころから友人たちと遠出をすることが楽しみの一つでした。就職してから同期のスタッフと遠出をする機会がよくあります。学生のころは遠くても足摺や室戸など高知県内にとどまってしまうことがほとんどでしたが、就職してからは遠いところで宮島や山口県の錦帯橋、山陰地方の出雲大社や鳥取砂丘、淡路島に行ってきました。四国内では香川で讃岐うどんの食べ歩きをしたり、徳島の渦潮を見に行ったりしてきました。

多いときには7人ぐらいの大所帯で出かけます。旅館の予約を取るとき、「7人で」とお願いすると「7人ですか、たくさん来ていただけるようで嬉しいです」といった返事が返ってくることもあります。

また、旅の途中ではみんなデジカメラを持っているので写真をたくさん



撮ります。帰ってきてからみんなで写真の交換をしたりと、思い出話に花が咲きます。

写真を印刷する時は100枚を超えてしまうこともあり、アルバムもいっぱいになってきました。

今一番行きたいところは京都です。これからもいろんな名所に行っておいしいものを食べたり、綺麗な景色をながめたりしながら癒されたいと思います。

また去年は職員旅行でサイパンに行き、初めての海外旅行を経験しました。「今年はどこに行く？」とその話題で盛り上がっています。

出張報告 ● ドイツの病院の訪問記 (2007年5月13日～19日)
 目的①グルタミンの使用状況②臨床効果の確認③NST活動状況の視察

アジア初の試みを グルタミン製剤で

臨床栄養部 部長 宮澤 靖

関西国際空港からフランクフルトに到着後、国内線に乗り換えハンブルグへ。そこからさらに車でキールという街まで、14時間の長旅でした。キールでは University hospital Kiel においてグルタミンの使用と臨床効果をレクチャーしていただき、さらに飛行機を



最初の視察地 University hospital Kiel の集中治療チーム乗り換え、もう一つの訪問先である Klinikum Leverkusen hospital で NST(栄養サポートチーム)の現状と、グルタミンの使用及び臨床効果を視察してきました。



グルタミン研究の世界的権威 Klinikum Leverkusen hospital の Prof.Vestweber と腕を組んで記念撮影

グルタミン (glutamine) とはアミノ酸の一種で側鎖にアミドを有し、グルタミン酸のヒドロキシ基をアミノ基に置き換えた構造を持つものであり、**術後や外傷時には生体で必須になるアミノ酸**です。そのような患者さんにグルタミンの投与を行うと窒素バランスが向上し、投与を行わなかった場合に比べ、リンパ球の回復、腸の透過率に向上が見られること、また副作用が無いことが明らかにされています。

私は米国留学時代からグルタミンの研究をしており抗炎症・免疫増強効果、創傷治癒促進を確認しています。今回、**画期的な製剤がドイツにある**ことを知

り、Fresenius Kabi Japan 社の協力を得て視察となったわけです。

ドイツにおいてはグルタミンが適正に使用されており多くの症例で成果をあげていました。先に述べたようにグルタミンの臨床効果は治療に大きく貢献するものであり、**ドイツでは術後6時間後からグルタミンの投与を行うことが標準化**されていて、早期投与によって臨床効果が生じていることを強調されていました。

日本でも多くの病院で術後早期に栄養管理をすることが行われつつあり、国内でも効果が証明されつつあります。その一番大きな効果は免疫低下の防止であり、このことが合併症を予防し在院日数の短縮につながります。

また、NST も活発に活動されており、早期に低栄養患者さんの改善に寄与し、近森会同様にチーム医療が構築されていていろいろな場面でチームアプローチがされていることが印象的でした。

「ドイツでは NST に対して未だ診療報酬が整備されていないので慢性的にスタッフ数の不足が国内で問題になっている」と説明がありました。この点、近森会では潤沢にスタッフが配置されているので環境面は恵まれていると思いました。



Klinikum Leverkusen hospital NST とのミーティング

今後は、このグルタミン製剤を日本においてアジア初の試みとして近森病院の患者さんに提供し、治療に貢献できることを願っています。そのためには臨床的效果と安全性を確認する必要があるとあり、**腸管の防御機能、腸細胞の増殖および分化、免疫機能改善、外科手術後の創部の回復期間を短縮する効果を中心に研究を進めてゆきたい**と考えています。

医療安全シリーズ⑧

医療安全担当看護師長 青木 千利

医療安全 パトロール隊

赤い腕章の出で立ちでスタートした医療安全パトロールも、本日(7月13日)4回目となった。



医療安全委員(委員長・看護部長・薬剤部長をはじめ各職種)に加え、教育・業務担当看護師長の飛び入り参加もあり、新しいことへのチャレンジ好きな“近森気質”が頼もしい。

もちろん、目的は医療の実践が安全に遂行されているか確認し、問題点は改善に結びつけることにあるが、見えていなかったモノが見える不思議な現象に胸ワクワクなのである。

▼救急カートの管理方法についてアドバイス中のパトロール隊



机下に押し込んでいない椅子がどれだけ作業スペースを狭く、危険な要因にもなっているか。期限切れの掲示物が何とも格好悪く、どれが新しい情報なのか分かりづらい。病棟の薬剤保冷庫の衛生管理はどうだろう。在庫薬品棚の表示に略語が使われているぞ。ここの照明は暗いなあ。

招かざる客の部類に入るであろうパトロール隊の注意にも、次の訪問で改善が確認されると、心の中でVサイン。またひとり、ここでも仲間が増えたと嬉しくなる。

▼在庫薬品が正しく管理されているか、チェック中のパトロール隊



本当は、キツパリ、サツパリが性に合う京都人



全国に18万カ所近くある医療施設のなかで、急性期や回復期、精神科などさまざまな現場を体験できるとして近森会が、独立行政法人「福祉医療機構」で現在ただ一人の現場研修者の、その研修先選ばれた。

独立行政法人「福祉医療機構」は、福祉・医療施設への貸付や、社会福祉振興事業への助成事業を行ってきた社会福祉・医療事業団が、国の進める特殊法人改革により平成15年10月1日付で再スタートしたもの。その法人の管理部債権課で特殊債権回収業務に当たっていた松本庄平さんが、この4月から1年間の予定で近森会に出向しており、現在は管理部で研修中である。

松本さんが研修を始めて以来感じている、ある一つのこと。いかにも土佐という土地柄に相応しい感想、「外の人間に見せていい処と見せられない処、言っていることと悪いことなど、区分けが一切ない。患者さんのために良いことをやってるんだから、何で隠す必要があるの!？」と、職員の皆さん、大らかでキツパリしているんです」と、まるで地球人が宇宙人に会ったような新鮮さを覚えているようだ。

慎重かつソフトな物腰で、やんわりとした言葉遣いが身に付いている京都出身の松本さんにとっては、東京にある「社会福祉・医療事業団」に同志社大学法学部を卒業と同時に就職した際、カルチャーショックも大きかったらしい。「京都のぶぶ漬け（お茶漬け）」に代表されるように、建前と本音の使い分けが普通だったようだが、東京はもう少し率直で言葉にも勢いがある。3年半の東京暮らしの後、4年半の大阪支店勤務を経てまた東京に戻り、2年経ってこの高知への出向となった。カルチャーの違いは大きい。

職場結婚のお相手は大阪人でサツパリしていてスパツとした物言いで、余計な慮おもんばかりを要求されない、安心して付き合えるタイプだったようだが、そういう点では土佐の人々も極め付け、水



が合いやすいようだ。

そもそも大学で法律を学んだのは、「いずれにしろ、つぶしが利く」というのがいちばんの理由で、就職活動期の母親の祖父介護を見て医療に興味があったし、専門性を活かし医療と金融がいっしょにできる仕事ということで選んだのが「福祉医療機構」だった。

キビシイ受験競争を勝ち抜いての現在だが、むろん控えめで奥床しく、「現場で行なわれていることを実体験として知らないのに貸付の判断をするわけですから、学ぶことばかりです」と、

低姿勢。肝に銘じているのは「病院の幹部がボクに頭を下げ下さるのは『ボクの机に対して』。だからエラクなると勘違いするな!」と、入職時に上司から言われた言葉だそう。

仕事柄というだけでなく、どうやら「一步引いて第三者的に見るクセ」が備わっているようだ。5歳離れた弟と専業主婦の母上、教員の父上に囲まれ、すぐ近くには祖父母もいて、ていねいに行儀よく育てられた、やはり京都のお公卿さんの土地柄という印象が強い。

もろ手を挙げて松本さんを迎え入れている周りに対して、まだまだ遠慮がちなフシもあるが、お育ちになった京都岩倉の伝統からいけば、目の回る速さで、太陽がいっぱいの高知に馴染んでもいるのだろう。

そうそう、ベトナムが大好きな奥さまが命名したという1歳8カ月になる蓮汰れんたくんの成長にもこの大らかな土佐が合うとご夫妻で喜んでいるらしい。

「息子には、大らかでいてきめ細やかで懐の深い典型的な土佐人、ちょうど机を並べる松本充夫さんのようなひとに育てて欲しいです」と松本さん。イメージとはちょっと違う、きっぱりシャーシャーと、こんな話が飛び出した。こういう率直さは、すでに高知の水に相当馴染んできた証でもあるのだろう。

ハッスル研修医・第3回

恐縮至極御指導御鞭撻

四月から初期研修医としてお世話になっております、高知大学医学部三期卒業生・澤村尚と申します。春先より初夏にかけてましては消化器内科の所属となり、先生方のご厚志ご指導のもとに楽しく厳しい日々を送らせていただいております。関係者各位におかれましては多々ご迷惑をお掛けする次第にて、この場を借りて深くお詫びするとともに心より御礼申し上げます。

而して来たる八月より循環器内科へ転科の予定となっております。各位におかれましては今後も何卒よろしくお願い申し上げます。さて、近森会の末席を

研修医
澤村 尚ひさし



汚してよりこちら、様々な多職種の職員の方々と係わりを持つ機会も増え、其其のプロフェッショナルの業を間近で拝見させていただき、蒙昧もうまいを啓かれ（※道理を知らされ）、感嘆途切れぬ日々でございます。触れるもの全てが学びの種でございますゆえ、気兼ねなく何でもお言いつけになって下さいますようお願い申し上げます。

拙文ご容赦願います。

● 8月の歳時記 ●

鷺草 (ラン科の多年草)

第二分院 文 山崎マリ

5階病棟 画 下元伸之 ※わざわざ墨一色で書きました。

「季語から選び、ついでに俳句も入れて」と食事時のミーティングで、第二分院5階病棟チームの『8月の歳時記』を「鷺草」(さぎそう)と決定しました。

鷺草は山地の日当たりのよい湿地に生える多年草。茎の高さは20~40cm。葉は幅広い線形。茎の先にサギの飛んでいる姿に似た純白の美しい花を1~2個咲かせる。乱獲により、その数は激減している。本州、四国、九州に分布。

風が吹き鷺草のみな飛ぶが如 高浜虚子

鷺草のおくれ咲きしも翔けそるふ 水原秋桜子



北村龍彦先生と、嫁ぐ娘・弥生さん



上田真弓室長と、花婿・向井淳次さん



6月の診療数	近森会 外来患者数	19,198 人	企画情報室より
	近森会新入院患者数	867 人	
	近森会 退院患者数	900 人	
	地域医療支援病院紹介率	80.56 %	
	近森病院平均在院日数	14.65 日	
	近森会 平均在院日数	21.75 日	
	近森病院救急車搬入件数	419 件	
	うち入院件数	212 件	
	手術件数	405 件	
	うち手術室実施 全身麻酔件数	259 件 146 件	

編集室通信

▼先日、母親が脳動脈瘤の手術をした。当たり前だが本人は手術前は大変ナーバスになっており「せんでもえいろうか?」と言っていたが、術後は「あーやっておいて良かった」とは…。親戚達も「本当に頭の中を治療したが?」と疑うくらい今は普通に生活をしている。先生や看護師さんには本当にありがたく、大変な仕事であると再認識をする良い機会となった。(ぼのだ)

図書室便り (管理棟図書室 6月受入分)

- ・最新整形外科学大系5 運動器の外傷学 / 糸満盛憲 (専門編集)
- ・新訂 保健医療ソーシャルワーク原論 / (社)日本医療社会事業協会 (編集)
- ・日本のソーシャルワーク研究・教育・実践の60年 / 大橋謙策 (編集代表)
- ・CD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン 新訂版 / 融道夫 (他監訳)

《寄贈本》

- ・新しい糖尿病学と透析医療 / 渡邊有三 (他編集)
- ・透析患者の検査値の読み方 改訂第2版 / 黒川清 (監修)

《別冊・増刊号》

- ・JIN スペシャル 80 与薬事故防止はカタチから! 今日から役立つ造形別くすりの知識 / 大谷道輝 (編集)
- ・第37回 日本看護学会論文集 (地域看護・成人看護I・看護管理) / (社)日本看護協会 (編集)

《ビデオ・DVD》

- ・隔月刊誌 呼吸器 & 循環器ケア 2007 付録 DVD 呼吸介助と呼吸理学療法 / 高見博文 (監修)